

Support for Woman Doctors ～私からあなたへ～

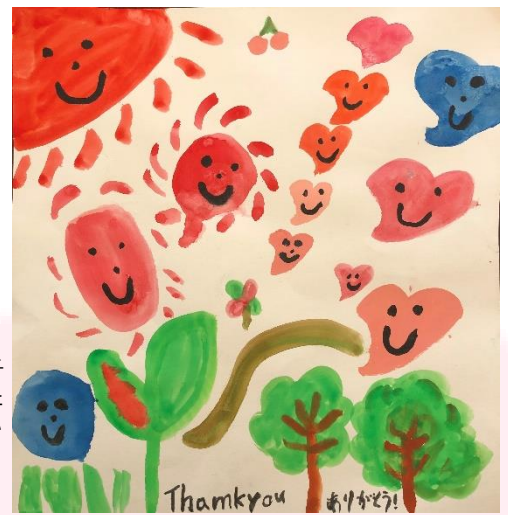
遠藤 日登美 先生【香川県 24 期】

勤務先 三豊総合病院

お子さん 16 歳、14 歳、11 歳、8 歳の 4 人

24 期香川県の遠藤(旧姓:植田)日登美です。香川県人会後輩の吉田先生からバトンを受け取りました。今までの経過を簡単にまとめると 6 年生の時に山形県出身の同期の主人と相談し県同士で結婚協定を調整して頂き、卒業と同時に結婚、初期研修 2 年は山形県、その後香川県で 5 年、山形県で 2 年と夫婦一緒に暮らせるようにご配慮頂きました。私の出身県である香川県勤務時に 3 人の姉妹を授かることができました。しかし出産・子育ては思うようにならないことが多く、今思うと若く未熟な自分に周囲の先生方やスタッフの皆さんは暖かく接して頂いていたとつくづく感じ、深く感謝しております。病院勤務の私が仕事の間、診療所勤務だった主人が大泣きする娘をおんぶしてあやしてくれていた日々を思い出します。そんな娘も高 2 となり、3 姉妹とも父親とテニスをしたり、ソファーでぎゅうぎゅうに座っていたり仲の良い父娘で、父親の子育て参加は実を結んでいるようです。

仕事も不十分、子育ても不十分でストレスを溜め気味になっていた時に、十分できないけど短期、中期、長期の目標を設定し優先順位をつけて大切な順に頑張ってみよう、と見通しをたてて力を抜くとなんだか楽しくなってきたのを思い出します。山形県では 1 人診療所も経験し、訪問診療で緩和ケアの看取りをしたり、休日は子連れ往診だったり、雪国の貴重な生活も経験しました。そして生活することの大切さを学びました。義務年限後は香川県の三豊総合病院から短時間勤務を利用しないかとお誘いを受け、入院や当直なしの短時間勤務で正規職員としての勤務が始まりました。内視鏡や超音波検査、人間ドックを中心に仕事を行い、週半日の診療所勤務もあり、現状維持を目標に勤務を続けることができました。実は、就職が決まった後に妊娠がわかり、それでも就職を引き受けてくださり、産後 5 か月まで育休を経験しました。



母の日に 8 歳の息子がプレゼントしてくれた絵。サプライズで描いてくれました。

遠藤家の末っ子長男の誕生です。女子とは訳の違う息子に驚くことが多い毎日でしたが、日々の成長に感動ばかりです。3 姉妹に末っ子長男が加わると、ますます思うような生活はできません。子ども中心の生活でしたが、子ども達から母は仕事に行っていてほしいと言ってくれるので、末っ子が小学生になってからはフルタイムですが入院当直無しの勤務になりました。これも上司の特別な配慮のお陰です。主人は外科医として働いている為、この勤務形態がなければ仕事は退職していたと思います。恥ずかしながら来年で医師生活 20 年ですが医師のスキルはまだまだです。当直も入院もバリバリになっている後輩の女医さんには頭が下がります。人間ドックは事務的な書類仕事が多く、時間の融通が利くので自分の勤務スタイルに合致します。他の臨床医の先生方の仕事量を減らすだけでも役に立てるように頑張ろうと思ひ勤務しています。令和 2 年 3 月から 5 月は COVID-19 の影響で子ども達 4 人が家で過ごす日々ですが、子ども達だけで昼食の料理をしたり部屋の片づけをしたり頑張ってくれており、おかげで子ども達の生活能力が自然と付いてきました。子ども達はそれぞれ自立できる人間となれるように親として見守っていくことが大事だな、と感じています。日々の短期目標は家族の健康と幸せ、中期目標は家族旅行と専門医の維持・学会発表、長期目標は臨床医としてのスキルを身に着けたい、そう考えています。自分が若いころに描いていた医師像とは違っていますが、自分で選んできた人生を幸せに感じています。自分の人生です。価値観はそれぞれ、プラス思考で乗り切っていきたいと思います。

後輩医師・学生へ一言メッセージ

『短期、中期、長期と目標を作ってみてください、すると優先順位が見えてきました。日々を大切に過ごしてくださいね。』

「自治医大卒業生 女性医師支援 NEWS」では、読者の皆様からのご意見をお待ちいたしております。特集記事のテーマ、絵本やその他のコーナーについても、ご希望などあれば、是非お寄せください。

連絡先: 自治医科大学 地域医療推進課 卒後指導係

E-mail: chisui@jichi.ac.jp